

下野市立石橋北小学校

1 学校課題

(1) 研究主題

思考力・表現力を育てる授業のあり方

～タブレット端末等のICT機器の活用と言語活動の充実を通して～



(2) 主題設定の理由

昨年度本校の特色であるICT機器（主にタブレット端末）を活用し、興味関心を高め、言語活動の充実を図り、思考力を育成するための研究を進めてきた。その成果として、児童の得る情報は、正確かつ豊富になり、記録や発言の内容は充実してきた。しかし、情報を生かして、自分の考えを文にしたり、説明したりする力に課題があると考えた。

そこで、これまでの取組に並行して、ICT機器の活用を図りながら、言語活動の基礎・基本でもある国語の授業を見直し、思考力や表現力を高めていこうと試みた。

2 研究内容

(1) タブレット端末の活用

①タブレット端末の機能理解と操作技能の向上と学年の操作技能（スキル）目標の作成

②タブレット端末の活用できる場の検討と各教科年間計画への位置付け

(2) 強い問題意識や興味関心を喚起させる単元導入の工夫

①単元導入の工夫（関心を高める場）、追究形態の工夫とタブレット端末の活用（課題の追究の場）、話し合い活動の充実（考えを深める場）による科学的な思考力の育成

②他教科における興味関心を喚起させ、情意面を揺さぶる単元導入の工夫

(3) 言語活動の充実

①これまでの学校課題の成果を生かした話し合いや書く活動の充実（国語の授業の充実）

②日常の授業でのタブレット端末等の活用による言語活動の活性化

3 研究経過

(1) 課題追究のための主な研修

月	日	研修項目	内 容	備 考
4	20	国語研修会	講話「今、国語科授業で求められていること」 講師 総合教育センター 菊地高夫先生	校内研修
4	27	課題検討会	学校課題の本年度の内容検討（共通理解）	校内研修
7	6	授業研究会	2年国語「組み立てを考えて書き、知らせよう『こんなもの、みつけたよ』」	校内研修(要請訪問)
10	11	授業研究会	2年国語「わかりやすいせつめいをしよう『おもちゃの作り方』」	校内研修
	21	公開授業	2年国語「わかりやすいせつめいをしよう『おもちゃの作り方』」 4年国語「段落どうしの関係をとらえ、説明のしかたについて考えよう『アップとルーズで伝える』」 5年国語「考えを明確にして話し合い、提案する文章を書こう『明日をつくるわたしたち』」	県小教研中央 大会国語部会
11	9	授業研究会	5年理科「もののとけかた」	S&U①
12	5	授業研究会	6年理科「てこのはたらき」	S&U②
	14	授業研究会	1年生活科「じぶんでできるよ」	校内研修
1	26	授業研究会	特別支援学級 国語「まわりの人にわかるように音読しよう」 研究のまとめ	校内研修



【指導者】S&U（理科）：宇都宮大学大学院教授 人見久城先生

理科・ICT機器：市学校教育課指導主事 田澤孝一先生 稲葉亜希恵先生

国語：市学校教育課指導主事 岡本直美先生

(2) 主な実践内容（理科・生活科・国語の研究授業）

①1年生活科「じぶんでできるよ」(校内研修)

家族の一員として、家族のために自分でできるお手伝いを考える授業であった。実体験やタブレット動画によるモデルがあり、児童は主体的に活動し、お手伝いへの興味・関心は高まった。経験や本時の体験などから、何がいいのかを具体的に考えられようになっており、思考力を育てることにつながった。



②5年理科「もののとけかた」(S&U)

水を入れた自作の透明パイプ（1 m）に水を入れておき、食塩の粒が次第に溶けて見えなくなる様子を観察した。その様子はタブレットの動画でも撮影し、記録した。繰り返しの実験で自分の考えが明確になり、記録をもとに活発な意見交換がなされた。自作器具やタブレットの活用は、児童の興味・関心を高め、主体的な活動を促す有効な手段となった。

③6年理科「てこのはたらき」(S&U)

導入では、シーソーのタブレット動画、ブラックボックスによる演示などで、関心を高めた。その後は、自作の「目盛りなしてこ」でつり合うきまりを見つける実験を、タブレットで撮影し、話し合いに活用した。プロジェクターで各グループの実験の画像（4面）を映し、全体の話し合いで活用した。課題追究の意欲や話し合いの深まりにICT機器の活用の効果が認められた。

[県小教研中央大会国語部会]

①2年「分かりやすくせつめいしよう『おもちゃの作り方』」

相手に分かりやすく伝えるために、情報を集め、整理し、順序や構成を考えながら文章を書いていった。写真や絵を文章に合わせることで、読む人に分かりやすい文章になることも学んだ。タブレット画像の活用や、友だちと確かめ合う活動（交流）は、児童の学習意欲を高めるだけでなく、情報の正確さや豊富さが増し、自分の表現を客観的に捉える力にもつながった。

②4年「段落どうしの関係をとらえ、説明のしかたについて考えよう『アップとルーズで伝える』」

「写真と文章の対応」という視点から、写真という具体物を使うことで、自分の考えを分かりやすく伝えることができると気付かせることができた。ここでの言語活動による学びは、理科等での実験や観察、調査等の記録や報告、身近にある情報の発信のしかたに生かされることが期待できる。目的意識をもたせたグループ活動は、主体的で円滑に進めることができた。

③5年「考えを明確にして話し合い、提案する文章を書こう『明日をつくるわたしたち』」

児童は、各グループの課題に沿って資料を集め、発表のためにまとめるという活動を行った。自分の考えを相手に伝わり易くするために、写真や図表、取材のインタビューなどでタブレットを活用したことは、効果的であった。児童の「相手に考えを伝えたい」という目的を持つことで、児童は主体的に学習活動を進めることができた。

4 本年度の成果と今後の研究

(1) 成果

- ①（理科・生活科より）タブレット端末のスキル向上により、記録、話し合い、発表など、学習活動の様々な過程で活用され、児童の主体的な活動を促している。自分の考えとの比較や修正などが積極的に行われ、思考力や表現力の育成につながったと考えた。
- ②（理科・生活科より）タブレット端末の活用、自作の教具、具体的な体験等の学習活動の工夫は、児童の学習意欲を掻き立て、言語活動や思考活動の活性化が図ることができた。
- ③（国語科より）児童の体験や既習内容で興味があることや、学びの必要感がある題材を言語活動として位置付けることで、学習意欲が喚起され、主体的な学習につながった。これらの活動では、教材文などと児童の体験やこれまで得た知識とを関係付けて考えたり、まとめたりする活動が活発になることが分かった。（目的や相手を意識した学習活動）
- ④（国語科より）交流（学び合い）によって、児童同士がお互いの文章を読み、考えを聞き合うことで、文章表現や発表内容に、深まりや広がりが見られた。

(2) 今後の取組

- ①タブレット端末の効果的な活用のため、段階的なスキル指導の研究をさらに進めたい。
- ②各教科等の言語活動の充実のために、言語活動の基本である国語科の授業の中で、どのように充実を図っていけばよいか、さらに研究を深めたい。